



社会医療法人近森会

発行

2015年11月25日

びろっば 12

Vol. 353

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目 1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 寺田文彦

新しい専門医制度について

近森病院循環器内科

主任部長 川井 和哉



わかりにくいこれまでの専門医制度

日本の専門医制度が大きく変わります。約50年前、日本で専門医制度が始まりました。最初は、麻酔科、脳外科、内科などでしたが、診療科名の表示に関する議論がきっかけとなり、1988年から多くの学会が次々と専門医認定制度を創設しました。そして2002年に厚労省から専門医広告開示が承認され、現在広告可能な専門医は約60種類もあります。学会独自の認定のため、各専門医の基準や定義もばらばらでした。また、国民にもわかりにくい制度となっていました。

専門医制度が変わります

来年度から、日本専門医機構という第三者機関が、専門医を教育するプログラムや専門医を認定するようになります。

ます。

「適切な教育を受け、標準的な医療を提供し、患者から信頼される医師」が新しい専門医の定義です。共通の基準で審査・認定されるようになり、標準的な質、医療サービスが確保され、わかりやすく安心な医療の提供が期待されます。最初は内科、外科、整形外科、救急科などの基本19領域（1階部分）から開始され、徐々に循環器、心臓血管外科などの2階部分の専門医に広がっていく予定です。

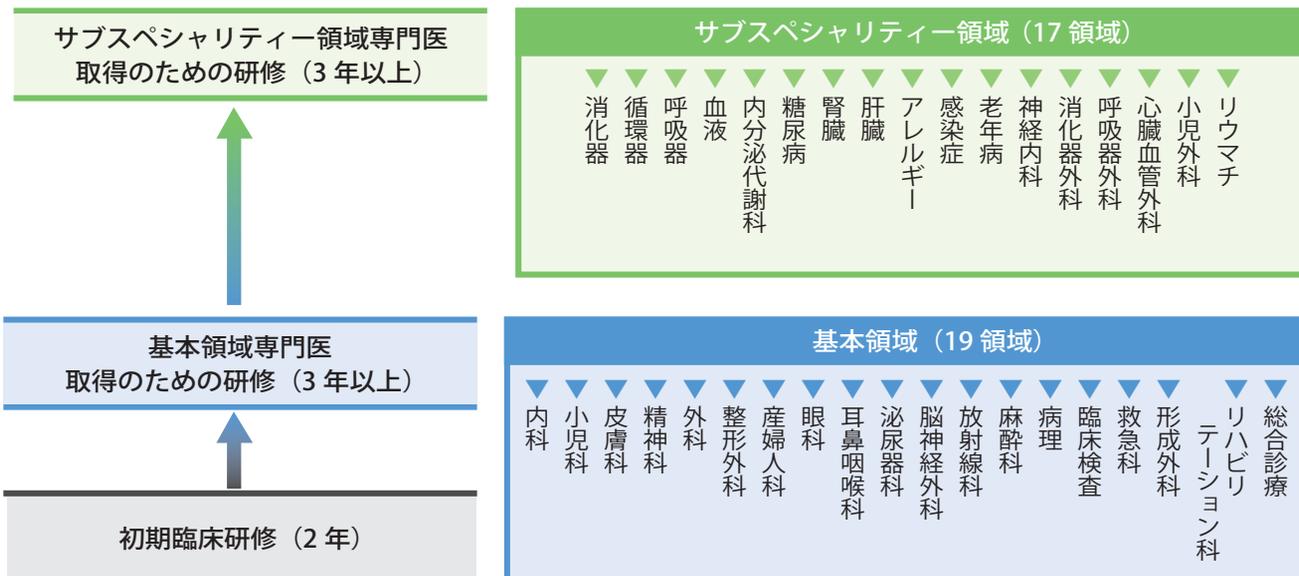
近森病院では

当院は現在も内科学会教育病院です。新しい制度でも内科専門教育基幹施設としてプログラムを作成しています。新しい内科専門医の医師像として、整備基準の中に次の1)～4)があげられています。

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 2) 内科系救急医療の専門医（救急に強い内科医）
- 3) 病院での総合内科の専門医（広い範囲に対応できる）
- 4) 総合内科的視点を持ったサブスペシャリスト（より高い専門性も持つ）

これらは、まさに今まで我々が行ってきた内科診療や専攻医教育であり、「当院の教育制度が日本専門医機構や内科学会に認められた」といっても過言ではありません。

これからも近森病院マインドを持った内科専門医を育て、高知、いや日本の内科医療を盛り上げていきたいと思えます。そして更により教育プログラムとなるよう病院を挙げて取り組んでいきます。 かわい かずや



変形性膝関節症の治療

その1 人工膝関節全置換術

近森病院整形外科
統括部長 衣笠 清人



高知県は全国有数の高齢者比率の高い地域です。しかも山や川が豊かで坂道が多いという特徴があります。従って中高年になると、多くの人が膝の痛みをかかえるようになります。

これが変形性関節症のはじまりです。関節軟骨がだんだんと摩耗してO脚変形が進んでいく内側型とその反対の外側型とがありますが、進行すると変形は膝関節全体に及ぶようになります。こうなると人工膝関節全置換術

(TKA) の適応となります。

1980年代のTKAはまだデザインも手術手技も高度に完成されていたとはとても言えないレベルで、それほど多くの患者さんに適用されてはいませんでした。得られる可動域は少なく除痛効果も完璧ではありませんでした。しかし近年のデザインの進化・手技の改善はめざましく、可動域・安定性・除痛効果すべてに著しい進歩をとげました。

当院ではPSタイプを用いたInsall法を忠実にいき、靭帯バランスを正確に整えることで両側の手術を受けても杖なしでしっかりと歩ける膝を再建す

るようしています。可動域の改善も含め得られる満足度が高くなったため、年々手術を受ける患者さんは増え続けています。また80歳を超えてからでも手術を受けようと来院する方が増えてきました。ただし、かなりの高侵襲手術であることは事実であり、より侵襲を小さくする手術の必要性も高まっています。

きぬがさ きよと

2015年10月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	19,206人
新入院患者数	941人
退院患者数	984人
近森病院(急性期)	
平均在院日数	15.32日
地域医療支援病院紹介率	68.14%
地域医療支援病院逆紹介率	139.00%
救急車搬入件数	570件
うち入院件数	299件
手術件数	460件
うち手術室実施	295件
うち全身麻酔件数	170件

● 2015年10月 県外出張件数 ●
件数 85件 延べ人数 161人

12月の歳時記

ポインセチア

近森オルソリハビリテーション病院
6階病棟看護師長 高橋 さち

クリスマス時期に合わせ短日処理をし紅葉させて緑色の葉色とのコントラストを楽しみます。ここ最近では、乳白色・ピンク等さまざまなバリエーションが増えてきています。一般に鉢植えのイメージが強いですが、宮崎県宮崎市堀切峠の沿道には5万本以上が植えられており、12月の開花には名所となります。遠いですが機会があれば一度見てみたいですね。



たかはし さち



絵・近森病院
附属看護学校事務局
公文幸子

近森看護学校通信 7

秋のスポーツ大会

▼豪華(?)景品を目指してハッスル!

10月26日(月)に県民体育館でスポーツ大会を行いました。学生たちが企画から運営まで行い、バレーボールとコーフボール(ドリブル禁止のバスケットボール)でいい汗を流しました。普段の授業で見せる姿とは違った一面を見せてくれる学生も多く、非常に楽しそうに生き活きしていました。

12月21日より臨地実習が始まります。基礎看護学実習Ⅰは近森リハビリテーション病院と近森オルソリハビリテーション病院で行います。よろしくお祈りします。

(上総 満高)



▲お弁当を食べて更にパワーアップ!

患者さん、家族と一緒に考える看護

近森病院5階C病棟看護師長 山本 詩帆
ハートセンター看護師長 田中 真貴子

5C病棟は、先月紹介された5B病棟と同じく、主に循環器内科、心臓血管外科の患者さんが入院しています。

ハッスル研修医

泥臭く全力で



初期研修医 坂西 誠秀

埼玉県で生まれ育ち、大学時代は鳥取県で過ごし、このたび高知県に参りました。小さい頃からサッカーが好きでゴールキーパーをしていました。毎日泥だらけになりながら、サッカーのように個性あふれる仲間と共に真剣に全力で打ち込める仕事をしたいと考えていました。

山をはじめ自然や生物が好きだったので、高齢化で存続が危ぶまれる日本の農業を継いでいきたいと思いましたが、農村医療が崩壊してきていることを知り、医学を学んで医・食をまとめて考えられるようになりたいと思いこの道に挑戦しました。

初めての土地に参りましたが、活気があふれ伸び伸びとした近森病院と高知の街で働くことができとても嬉しいです。

サッカーをしていて最も好きな瞬間は、ポジションの垣根を越えて皆でゴールを守り皆でゴールを目指している時です。そのような医療を行う選手になれるように、たくさん身に着けるべきことがあり、不安があるなかでも1日1日を大切に泥臭く全力で過ごして参りたいと思います。

ばんざい せいしゅう

カテーテルによる検査・治療入院や術前術後、心不全の患者さんが多く、入院退院の多い病棟です。

今年度の病棟目標は、「入院時から患者・家族の退院後の療養生活を見据えた看護を展開し、退院後も必要なケアが継続できるようにする」です。急性期病院に入院するのは、ごく限られた期間であり、退院後の病状や生活の自己管理が重要となります。

心不全の繰り返しによる再入院を予防するにはどうすればよいのか？患者さんが慢性疾患と上手に付き合いながら生活するにはどうすればよいのか？入院中から医学面・生活面の適切なア



セスメントを行い、リハビリスタッフ、管理栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー、歯科衛生士などの他職種とカンファレンスを重ね、患者さんやご家族といっしょに考えています。そして、必要なケアが途切れないよう、外来スタッフや訪問看護師、ケアマネージャー等へと情報をつないでいます。

これからも患者さんが安心して入院生活を送り退院できるよう、病棟チーム一丸となって支援していきたいと思っています。

やまもと しほ
たなか まきこ

「ソムリエ・ドヌール」



近森 正幸

10月28日、高知市で開催された日本ソムリエ協会のワインフェスタの席で「ソムリエ・ドヌール」という名誉ソムリエに叙任された。名誉ソムリエというのはワインを愛し、ワイン文化の普及に貢献している人たちに与えられるもので、現在全国で二百名ほどの方々が活躍されている。

私のワインとの出会いは新婚時代で、岩の原ワインが最初だった。以来ワインに強く惹かれ、子供たちが成長

した25年前から夫婦で毎年のようにブルゴーニュやボルドー、ロワールやローヌなどのワイン銘醸地や、田舎のあまり知られていないワイン産地なども巡っている。現地では葡萄畑の土や石ころ、切通しに露出した表土や岩盤をみたり、日当たりや風を感じながら地元のワインを楽しんでいる。

フランスへの旅を通じて学習院大学の篠沢秀夫教授とご一緒するようになり、先生のご推薦で2005年10月にクロ・ド・ヴージュでブルゴーニュワイン騎士団の「シュヴァリエ・デュ・タートヴァン」に叙任させていただいた。三十数年、浮気性のワインラバーとして毎日のようにワインを飲み続け、若いころは力強いボルドーが好みであったが、現在はブルゴーニュの華やかさに惹かれている。

人生の最晩年には、熟成したボルドーとともに過ぎ去りし人生を振り返っている、そんな幸せな姿を思い描いている。

理事長・ちかもり まさゆき

近森病院

臨床栄養部主任 内山 里美



高知に来て始めた趣味が二つあります。サーフィンとジギングです。サーフィンは、先輩PTさんにボディボードを教えてもらったのがきっかけとなり、今はロングボードで波乗りに行っています。

最初は波待ちをするのも一苦労でしたが、なんとか波に乗れるくらいになりました。早朝の澄んだ空気の中で海に入る爽快感と、板が波の面を滑っていく感覚はなんともいえません。

ジギングは「Chikamori fun fishing club」の面々と一緒に釣るのがきっかけです。たいへん奥が深く、私の腕ではなかなか釣れないですが、もし釣れるとおいしい魚（マハタ、ネイリ、太刀魚……）をgetできます。ジギングの醍醐味はいろいろありますが、私にとってはこれが最大の魅力です。

高知で出会った人と海が教えてくれたこの趣味は、これからも続けたいと思います。女性の仲間が少ないので、もし興味がある方はお声がけください。

うちやま さとみ

回復期リハ病棟での薬剤師の取り組み

近森リハビリテーション病院

薬剤部 科長 西田 晶子
主任 中野 克哉

近森リハビリテーション病院薬剤科は、外来処方箋の院外発行や薬剤管理指導料の包括化に対応し、人員配置や業務内容の変化はありましたが、常にチーム医療を担う一員として患者さん、病棟スタッフの近くに出向くように心がけてきました。

新病院では病棟にも薬剤師活動拠点となるDI室が準備されました。患者さんは急性期のたいへんな時期を乗り越えられた後、じっくりとリハビリテーションに取り組みされると同時に処方されている薬についても目を向けられるようになります。

患者さんやそのご家族の方々が、処

方されている薬を理解して安心して内服できるよう服薬指導を行い、副作用の早期発見、患者さんのQOLの改善のため疼痛、排便、睡眠などの薬物療法支援などに貢献できるよう努めています。

これまで以上に臨床の場で患者さんと接し、専門的に薬物療法を支援する力が必要となってきました。医師や他職種とともに、患者さんにあった薬物療法を行っていくことができるよう、日々精進していきます。

にしだ あきこ
なかの かつや

リレー エッセイ

祖谷のかずら橋

近森リハビリテーション病院
言語聴覚士 大石 亜祐未

先日、^い祖谷のかずら橋へ行きました。かずら橋というのは、サルナシなどの葛類を使って架けられた原始的な吊り橋のことで、日本では徳島が有名です。

当時、妊婦だった友人に誘われたのですが、私は高所恐怖症でリハビリ病棟の屋上から下の道路を見てもゾッとします。ですがその日は、自分の力試しだと思って行くことにしました。

高知市内から高速道路を使って約一時間二十分走り、山を登ったところがありました。橋を目の前にしても特に怖気づくことはなく、「大したことはないな」と思いました。しかし、いざ橋に一步足を踏み入れた途端、周りの景色が一変しました。下を見ると激流の川、先ほどまでは感じなかった冷たく強い風、そして誰が揺らすわけでもないのにゆらゆらと揺れる橋……。踏み板のすき間から見える下の景色に、もう私の足は動きません。友人はというと、大きなおなかを抱えているにも拘らず、橋の真ん中までスタスタと渡り、携帯のカメラでパシャパシャと景色を撮影していました。

後からきた家族連れの子もたちも、固まっている私に見向きもせず、子ども



たちはすいすいと渡って行きました。私は結局渡れず、別の道から出口に向かいました。

橋の近くにはお土産屋さん、祖谷で有名な祖谷蕎麦もありますので、橋を渡らなくても十分に楽しめました。今季節は山の紅葉も綺麗なので、みなさんもぜひ、度胸試しに訪れてみてはいかがでしょうか。 おおいし あゆみ

乞！熱烈応援

マネジメント出来る力を

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部
療法士長 中越 昌浩



理学療法士 (PT) 歴、17 年目になります。今年、回復期セラピストマネージャー研修を修了し認定を受けたばかりで、タイミング良く療法士長としての役割を担うことになりました。

正直、不安ですが、研修で得た知識を生かし、療法士長としてマネジメント出来るように、力をつけていきたいと思ひます。

なかごし まさひろ

対話を大切に

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部
療法士長 土居 文佳



今回、療法士長を拝命し、その責任の重さに不安も多々ありましたが、今は、多くの先輩方や後輩の支えの中で、等身大の自分で、自分のできることから、病棟のスタッフの方々と共に、よりよいチームを作り上げていけるよう努力していきたいと思ひます。

スタッフ一人一人、患者さん一人一人との対話を大切にしながら、日々、精進していきたいと思ひます。

どい あやか

経験を活かして

診療支援部
医事課主任 武内 香織



総合受付にはじまり、外来計算カウンター、カルテ室、文書係、内科病棟、外科病棟と、さまざまな部署で仕事をさせていただき今年で医事課歴 24 年となります。

仕事の状況を把握し適切なアドバイスをすることができるよう精いっぱい頑張りますので、これからも宜しくお願ひします。

たけうち かおり

職員旅行

今回はバルト三国、USJ、淡路島に行ってきました。



▲淡路島の牧場で▼乳搾り



▲リトアニアで杉原千畝になりきって

▼エストニアの歴史ある旧病院の前で



▼USJ はハロウィンカラー！



第22回世界神経学会 (XXII World congress of Neurology) に参加して

11月19日(木)

17:00以降撮影予定

近森病院神経内科部長 葛目 大輔

10月31日から11月4日まで、Chile, Santiagoで開催されました第22回世界神経学会に参加しました。

“Significant association between cardio-ankle vascular index and deep subcortical white matter hyperintensities in patients with acute ischemic stroke”という演題で、ポスター発表しました。

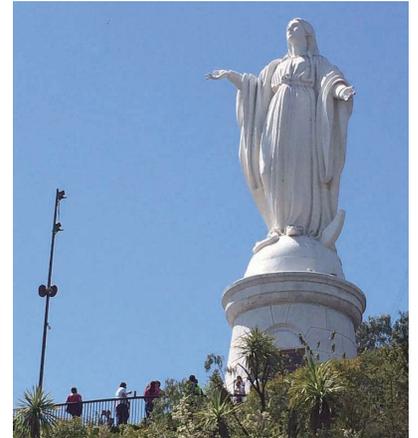
発表当日、ポスター前で質問を受け付けていましたが、誰からも質問されずに、少し寂しい思いをしました。

2017年に京都で第23回世界神経学会が開催されますので、同学会会場では、世界神経学会のブースでその招致活動を主にお手伝いしておりました。

主な招致活動としては、法被を着て、ブースに来られた方々に日本酒を振る舞い、またその方々に法被を着させて、写真撮影を行いました。

Santiagoまでは飛行機で約30時間かかり、日本との時差も12時間あります。Santiagoは標高520mの所にあり、周囲を山々で囲まれる盆地に人口約600万人が住んでいる大都会です。よって、寒暖の差が激しく、晴れた日の日中は暑いですが、夜は冷え込みました。

出発前には、強盗に遭遇するのではなどと心配していましたが、ホテル周辺や学会周辺は比較的安全であり、心配事は杞憂に終わりました。しかし、会場までの交通の利便性は悪く、ホテルや学会会場周辺でタクシーを拾うこ



とも難儀し、タクシーに乗車後も南米特有の“ラテンのリズム”で運転が粗く、車酔いをしてしまいました。

くずめ だいすけ

VHJ 研究会 第26回職員交流研修会に参加して



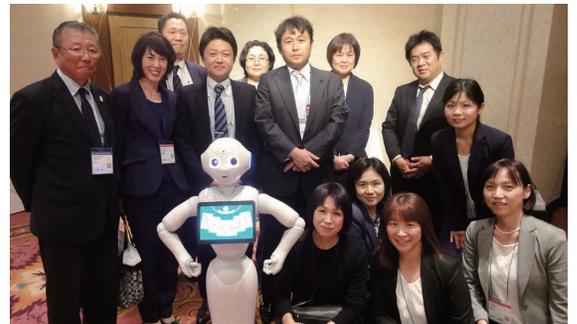
診療支援部部长 山崎 啓嗣

11月12日、13日の両日、岐阜グランドホテルを会場に「VHJ研究会 第26回職員交流研修会」が開催されました。この職員交流研修会は、毎年、会員病院が交代で幹事を務め、その所在地において開催されています。今回は岐阜県にある社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院が幹事となり、全国の会員施設から多くの職員が参集し交流を深めました。

毎年1日目は、ジャンルを問わずその地方、その土地ならではのお話をゆかりある講師から聞かせていただきます。今年は、基調講演①として名古屋市の東山動物園 橋川央園長から「動物園の表と裏」、基調講演②では、静岡大学 小和田哲男名誉教授から「織田信長と岐阜」と題したお話がありま

した。信長の原動力は「富の力」だったとする先生は、足利義昭からの副将軍の提示を蹴った信長が、堺と近江の大津、草津を直轄地にした点を挙げ、あくまで「実利」を取ることで「経済力」を高めたことや、トップがこうした合理的な思考を持てばこそ飛躍的に成長したとの解説がありました。信長のこういった思考・戦略は、時代背景の異なる現代社会やわれわれ職員の病院運営においても通ずるものがあり多くの示唆を得られました。

また、2日目は、六つの分科会(経営戦略、看護管理、地域連携、チーム医療、業務改善、研修医研修制度)に分かれ、他施設の方々と情報交換を行い大変有意義な時間を過ごすことができました。各施設共通で感じた点は、



▲中列左から3人目が筆者



患者さんの受け入れ体制づくり(ハード面)が進み、次のステップとしての的を絞った対象者への情報発信や患者さんを円滑に受診へつなげるため、積極的に地域へ出て関係機関との強固なネットワークづくりを推進している点だったように思いました。

やまさき ひろつぐ

植苗病院院長 芦沢健先生 ▶



ともに困ることの大切さ

近森病院総合心療センター
作業療法室室長 山内 学

10月16日の植苗病院院長の芦沢健先生に「依存症の治療とその流れ～アルコール症を中心に～」講演していただきました。今回は「困った方たちに困っている」医療スタッフが集まりました。

臨床現場でのたくさんの困る人たちを長年みてきた経験からわかることや

近森会
保育室 **そると**

おいも掘りに行ってきました。



2015 10 25

アルコール症治療への取り組みについての効果なども具体的に教えていただきました。

特に臨床をしていて困るときは、相手を思い通りにしたいときでもある。そして、困ることがなくなったら臨床家としてのゴールではなく、終焉と思う。困らないことは、問題解決ではないなど。日々の臨床を振り返り、業務に取り組んで行こうと思える機会にな



りました。

きっと困らない方法があるはずと思って参加したスタッフにとっては、ともに困ることの大切さについての意味を理解する上で次に繋がる大きな気づきと勇気ももらいました。

やまうち まなぶ

お弁当拝見 38 ボリューム満点弁当



近森病院
理学療法科 藤岡 亮



私は朝ごはんを食べるのが苦手です。いつもおにぎり半分です。なので、お昼までにお腹がすいてしまいお弁当が待ち遠しいです。でも、いつもボリューム満点のお弁当は友達などから注目されてしまうので見られないうちに食べています。そして、午後はお腹も満たされがんばろうと思う反面、満腹感により眠気に襲われないか心配です。高校から毎日お弁当を作ってくれて



いる母にはとても感謝しています。

ふじおか りょう

ワイン講座 ● 37

ぶどう品種を知り、個性を探る 黒ぶどう その14

イタリア篇 サンジョヴェーゼ

イタリアを代表する赤ワインのぶどう品種で、国内で最大の生産量を誇ります。原産地はトスカーナ州と言われており、イタリアでは北部とシチリアを除き、ほぼ全域で栽培されているほか、カリフォルニアや南米でも栽培されており、イタリア起源のぶどうの中で唯一、ワールドワイドの品種です。

サンジョヴェーゼは、高価で素晴らしいワインからリーズナブルなものまで幅

が広くあり、キアンティやブルネッロ・ディ・モンタルチャーノ、ヴィーノ・ノビレ・ディ・モンテプルチャーノなどは、この品種から作られています。

出来上がるワインの特徴は、濃い色合い、しっかりとした酸味、そして豊富なタンニンで、お肉料理との相性も良い。色濃く、果実感豊かなワインはありますが、同時にしっかりとした酸味と豊富なタンニンを備えたものは、そう多くはあ

りません。

ぶどう品種の特徴よりも、土壌や気候など栽培されている土地の個性が反映される品種で、出来上がるスタイルは様々です。優れた生産者の上質なものは、世界的に見ても最高のワインのひとつになります。

鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)



いつまでも健康で歩けるために～TAKE！ABI 2015 in 高知～



測定イベントを開催

近森病院
循環器内科部長 関 秀一

65歳以上、そして50歳以上で喫煙歴や糖尿病の方を対象に、心筋梗塞・

脳梗塞・末梢動脈疾患(足の血管病)の原因となる動脈硬化の早期発見の

ため、10月24日、すこやかセンター伊野にてABI(Ankle Brachial Index: 足関節上肢血圧比)測定イベントを開催しました。

同時に、WESTほね関節クリニックの武村泰司院長から「足の痛



み」、当院看護師岩井千代美から「足病変」、私は「足の血管病」について講演を行いました。

皆さんたいへん興味深く受講され、質問も多く、健康に対する意識の高さを実感しました。このようなイベントを県内各地で開催し、高知県民の健康と寿命延伸に貢献できればと思っております。 せき しゅういち



緩和ケアデー

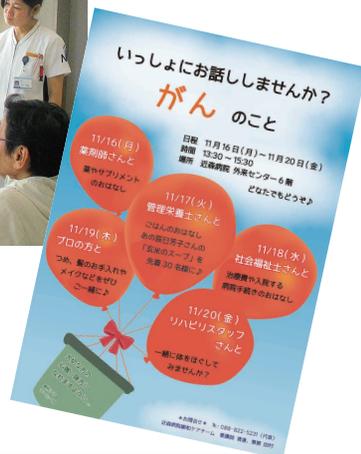


「緩和ケア」を知ってもらうために

緩和ケア委員会委員長
消化器内科科長 富田 秀春

“緩和ケア”を知ってもらうイベントを開催しました。心と体の症状を和らげる治療を“緩和ケア”と言い、がんと診断されたときから受けることが

できます。気になることを相談したり、お話を聞いたりしながら楽しいひとときとなりました。 とみた ひではる



帯屋町ハートクリニック

診療科目 循環器内科、内科、心臓リハビリテーション科

<http://www.obiyamachi-heart-clinic.com>

〒780-0841 高知市帯屋町二丁目2-9
帯屋町CENTRO 2階
電話 088-875-4976 FAX 088-875-4970

院長 日浦 正仁 大阪市出身
昭和45年5月26日生
趣味 ランニング、釣り



循環器疾患(心臓病、血管疾患)、生活習慣病(高血圧症、脂質異常症、糖尿病、高尿酸血症など)を主に診察しています。また、高知県では数少ない外来通院型心臓リハビリテーションにも力を入れています。病気に関することでの不安のある方はご相談ください。

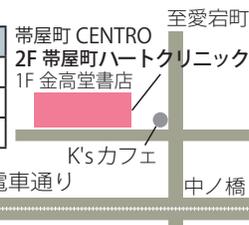


▶エレベータで2階へ、すぐに左手にクリニックの入り口があり▲入り口をいってすぐ左正面が受付になっている



診療時間	月	火	水	木	金	土
8:00～13:00	●	●	●	●	●	▲
14:00～16:30	★	★	★	★	★	★
17:00～19:00	●	/	/	/	/	●

▲土曜のみ9:00～14:00
★訪問診療、検査
休・火、木、土の午後と日祝



感染防止対策地域連携加算による 相互訪問を受けて



近森病院副院長
感染対策委員会委員長 北村 龍彦

平成24年4月の診療報酬改定により、感染防止対策地域連携加算が新設されました。医療機関が相互に訪問し感染防止対策の評価や医療機関同士の連携等を行うことで、お互いの医療機関のみならず地域の感染管理体制の構築と質の向上を図るものです。

10月29日、高知大学医学部附属病院と幡多けんみん病院のICTに当院を訪問していただきました。我々が毎週実施しているラウンドと違う視点で行うため、自己チェックを事前実施、2病院に結果



を送付し、訪問時に文書類の整備状況や感染対策実施成果物のチェックと共に、ラウンドにて感染防止対策の実施状況について確認後、形式的評価を行っていただきました。

自分たちでは思いも

よらない指摘もあり、とても参考になりました。このシステムは参加医療機関にとってたいへんに有意義であり、診療報酬制度に関わらず、さまざまな医療機関で実施され、地域での感染管理における医療機関連携が構築することができれば素晴らしいと改めて実感しました。

きたむら たつひこ

高知県 糖尿病デー市民公開講座

2015年11月15日

左から2人目が筆者



足病変やフットケアの啓発

近森病院看護部内科外来
主任 岩井 千代美



11月14日は世界糖尿病デーで、その活動の啓発のPRがされました。あいにくの雨でしたが、ブルーにライトアップされた高知城を見られた方はどれぐらいいたでしょうか？

11月15日(日)に県民文化ホールにて高知県糖尿病デー市民公開講座が開催されました。当院通院中の患者さんの姿もあり、会場は満席となる80名が参加されました。当院からは公文義雄医師が「みんなで防ごう、糖尿病合併症」私は「糖尿病と足の関係～合併症から足を守るために～」、医療セ

ンター管理栄養士から「忍び寄る糖尿病、毎日の食事でストップ」の3講演がありました。講演終了後参加者の一人が「今日の話はとても身近に感じよく分かりました」と声をかけてくれました。

今回このような機会をいただき、日常の療養指導ではなかなか触れることのない足病変やフットケアについて啓発活動ができ、貴重な経験をさせていただきました。

いらい ちよみ

世界糖尿病デー報告

11月14日の世界糖尿病デーにちなんでイベントを開催しました。看護師や臨床検査技師による血糖測定やフットケア、管理栄養士が食品パネルを用いての食事療法などを行い、たくさんの方々にご参加いただきました。



● 診療数と県外出張件数は2面に移動 ●

編集室通信

みんなの夢が詰まった新病院がついにオープンしました。新しいチャレンジが多いめまぐるしい1年でしたが、素晴らしいスタッフと一緒に働いていることを改めて実感する1年となりました。また忙しいからこそ気づけた幸せもあります。日々溢れる小さな幸せに感謝して、今年もあと1カ月、元気に駆け抜けます！ (陽)

図書室便り (2015年10月受入分)

- Concepts and Cases in Nonunion Treatment / René K. Marti (他著)
 - Casts, Splints, and Support Bandages Nonoperative Treatment and Perioperative Protection / Klaus Dressing (他著)
 - 形成外科診療ガイドライン全7巻 / 日本形成外科学会 (他編)
 - 胆道疾患を診る医師のための胆道病理テキスト / 中沼安二 (編著)
 - 臨床・病理食道癌取扱い規約第11版 / 日本食道学会 (編)
 - 臨床・病理原発性肝癌取扱い規約第6版 / 日本肝癌研究会 (編)
 - わかりやすい周産期・新生児の輸血治療研修医から専門医まで必修の輸血療法と安全対策 / 大戸齊 (他編)
 - 訪問看護実務相談 Q&A 平成27年度改定版 / 全国訪問看護事業協会 (編) 2015年へのカウントダウン地域医療構想・地域包括ケアはこうなる! / 武藤正樹
 - 医療機器システム白書 2016 / 月刊新医療 (編)
- 《別冊・増刊号》
- 臨床栄養別冊栄養力 UPNST 症例集⑤ / 雨海照祥 (監)
 - 臨床栄養別冊栄養指導・管理のためのスキルアップシリーズ Vol.4CKDの最新食事療法のなぜに答える実践編 / 金澤良枝 (他編)
 - 臨床栄養臨時増刊最新エビデンスに学ぶ効果の上がる肥満症食事療法の実践 / 大畑秀穂 (編)
 - 関節外科 34巻 10月増刊号最新整形外

科医が知っておきたい薬の使い方 / 帖佐悦男 (企画・編)

- 臨床画像 31巻 10月増刊号 Tumor syndromes / 山田正信 (他著)
- 精神科治療学第30巻増刊号精神科治療における処方ガイドブック / 「精神科治療学」編集委員会 (編)
- HEART nursing 2015年秋季増刊目で見て理解! ナースのための心臓外科手術
- の術式別ケアビジュアルガイド / 宮本伸二 (監)
- Nursing BUSINESS 2015年秋季増刊速習! 看護管理者のためのフレームワーク思考 53 マネジメントの基本概念が図解でわかる / 川口雅裕 (他著)

《視聴覚資料》

- Audio-visual Journal of JUA Vol.21 No.4 / 日本泌尿器科学会 (監)

「全方位型」で、まっしぐらに！

システム化への視点

文化を「システム」として捉え、政治や経済や宗教を見直そうとする「国際文化」を大学時代勉強した。大きな志があったわけではないが、近頃、当時のそんな学びが何らか役に立っているのではないかと、ふと思う。「これをやるからこの結論」といった想定内の成果ばかりではないが、だからこそ、「システム化への視点」が現状に不可欠であり、達成できれば「やり甲斐もひとしお」と、いえるのだろう。

事務長として自覚する役割をいくつかに分類するのは難しそうだが、例えば、理事会で出される大きな方向性へ向けての最短の道のりの提案や、相手のニーズへの応え方、収入をどう増やしてどう次のステップへ繋ぐかなど、常に多方面への目配せが求められるポストといえるのだろう。

「通過型施設」として、利用者の自立生活を支援するなかで、上田真弓センター長が常に「これからどんなふう生きていきたい？」と、自己決定、自己責任を強調する視点を共有し、しかもどうすればセンター長が動きやすいかを工夫するのも、事務長の大事な役割だという。

覚悟せざるを得ない責任

一般の会社の営業職に居たとき、採算が取れるためには、動き出す前の段階でどう計画し、どう展開させるか、つまり、「営業職として主体的に動く姿勢」について考えさせられた。

いま事務長としての立場で、スタッフに強調したいのは、まさにこの「主体的に動く姿勢」だという。採算ベースに乗ることに拘るつもりはないのだが、公費を運営資金としている以上は、「責任を覚悟せざるを得ない」のだ。

地域の皆さんに存在を認められ、納得される施設であるためには、利用者の満足が得られ、それにより利用者の数が着実に伸びること。そんな目標を職種を問わずスタッフと共有でき、常に共有を目指せること、これもファ

ミュー高知に勤めて5年半、自身の立ち位置の課題のひとつと考えているという。

「社会資源活用のプロ」としての自覚

利用者が素直に望ましいと思える方向に落ち着けることが、施設としての究極の終着点になるのだから、スタッフひとり一人にその理念も共有してもらい、広い意味での広報活動を皆に担ってもらいたい、という願いも持っている。相談員に限らず、スタッフは皆、「社会資源を活用するプロ」だという誇りを持って、事務長自身も含めて、「現実を直視した支援を利用者目線で考えていきたい」と語る。

いま仕事が面白くてたまらない。「こんな方向が可能ではないか」と上田センター長や西岡由江施設長と話し合い、ときに軌道修正も入れながら、それでも、着実に数字が見える。やっただけやっただけ、工夫したらただけの手応えが、だんだん強くなっているという。だから頑張り甲斐もある。

ヒントはそこそこにコロガっている

家庭では、一男一女のパパとして、「いまごろハヤリのマイホームパパらしく（笑）」休める日には家族で出かけるし、教育のことも夫婦で話し合っている。長男の慶一郎くんが昨春、小学校に上がるときには、教育パパゴンではないが、「電車が大好き!!という希望を叶えてあげる」ことを口実に、越境にはなるが、電車を使って通学させることにした。

長女の紗季ちゃんの通う幼稚園は、「園の方針が親のニーズに合ったため」だが、「園の、相手のニーズにどう応えるか、に触れること」は、ご自身の仕事のヒントにもなっているという。

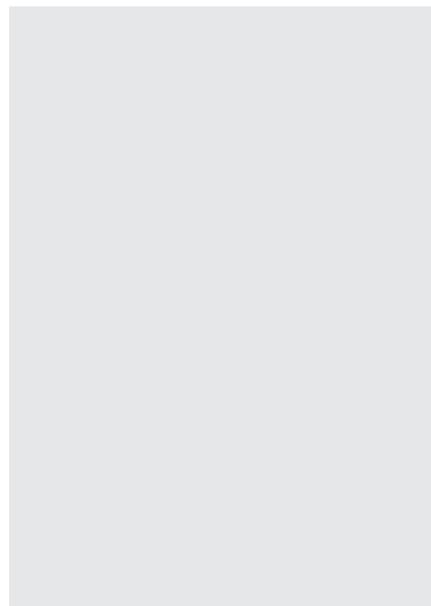
一事が万事、川添事務長の発想は常に「周りのなんでもがヒントになりはしないか」と考えることだという。職場も家庭も大きな方向性についてはアンテナを張り巡らせ、まさに「全方位型プレイヤー」として、まっしぐらに走り続ける感じ。この体力が頼もしい。



▲はみでて危ない植木の先をポキッ！



▲第2回ハビリ地域フェスに家族で参加



おめでとうございます！ (五十音順)

PS AWARD 2015 受賞者

PS AWARD 2015 の受賞者は下記の7名で決定しました。おめでとうございます。この方々は近森会グループでとくに対応や身だしなみが素晴らしいと評価され選ばれました。とてもここで書ききれない推薦理由も合わせてご覧ください。

要 致嘉さん

近森病院循環器内科 医師



評▶いつも笑顔で挨拶を返してください、患者さんへの対応がとても丁寧です▶いつもはきはきした挨拶が気持ちいい▶いつも元気な挨拶をしていただきます

澤田 和幸さん

セコムジャスティック高知株式会社
外来センター前警備員



評▶職員、患者関係なく細やかな心配りで挨拶します▶誰にも低姿勢で声をかける姿と態度が変わらないのはすごいと思います。昨年に続き一押しです▶挨拶笑顔はピカイチです

杉村 尚英さん

近森オルソリハビリテーション病院
6階病棟 介護福祉士



評▶いつもニコニコ、イヤな顔をしたのを見たことがありません▶どんなことでも感じよく、黙々と働いています▶仕事、対応、丁寧です

中西 花さん

近森病院 管理栄養士



評▶いつも笑顔で病棟内を和ませてくれます▶笑顔が素敵で丁寧に対応して下さいます▶頑張っておいしい食事を提供し、患者さんから愛されているから

西田 美香さん

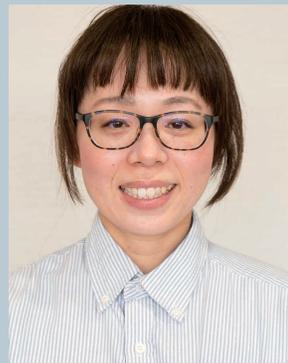
四国管財株式会社
近森病院 SCU クラーク



評▶いつも細かい気配りと笑顔での対応にとっても癒されます▶電話での印象がとても明るくて素敵です▶いつ電話しても対応が良いです

藤枝 真美さん

近森病院総合心療センター
5階病棟 看護補助者



評▶誰にも常に誠実な関わりと笑顔が素敵だから▶フットワークが軽くどんな依頼も引き受けてくれます▶仕事熱心で、患者さんへ丁寧な言葉遣い、病棟でも一目置かれています

柳井 さや佳さん

近森病院 臨床検査技師



評▶スタッフや患者さんに対する対応が丁寧▶いつも笑顔でスタッフにも患者さんにも丁寧な対応で素晴らしいです▶いつもはきはきと明るく挨拶をしてくれます

PS アワード 2015 をふりかえって

今年は「あなたがいるから笑顔になれる」をテーマに開催し、昨年を100名近く上回る、多くの方々が投票に参加してくださいました。この「PS アワード」という企画を通して、近森会グループで働くみなさんの素晴らしい仕事ぶりや、思いやりにあふれた人柄に改めて気づくことができたように思います。今回惜しくもアワードに選出されなかった方々にも、「笑顔での対応に元気をもらっています」「職員にも患者さんにもいつも優しく接する姿に好感が持てます」など、心温まるコメントが寄せられました。コメントは、匿名にて後日対象の方々にお届けしたいと思っております。投票に参加して下さった皆さま、ご意見をいただいた皆さま、ほんとうにありがとうございました。
(昨年、今年と連続して受賞された方は殿堂入りとさせていただきます。おめでとうございます！)